

土に還る(5)竹を使う

エッセイ 大江戸エコロ帖
第十回

文／石川英輔

身の回りに竹製品が少なくなった。わが家では、古い30センチメートルの物差と、台所にある箸類、それに蕎麦用の薄いざるだけが辛うじて残っている。だが、プラスチックもステンレスもなかった江戸時代には、家の中にさまざまな竹製品があった。

竹は、茎が管状になっているばかりか材質がしなやかで、皮が硬く滑らかで水が滲み込まない。また、とても成長の早い植物で、太い孟宗竹でさえ一カ月ぐらいで茎の全長が10メートル近くまで育ち、一年もたてば普通の家庭用品の材料としてなら使えるほど丈夫になる。寒冷地でなければ、竹林の手入れをするだけでこんなに便利な材料が毎年新しく生えてくるのだから、昔の人が積極的に利用したのは当然だった。

竹の利用法は、あまりに範囲が広くて簡単には説明できない。

図版／さまざまな竹製品を担いで売り歩く行商人。驚くほどのいろいろな形に加工して利用していたことが分かる。「江戸東京 風俗野史」

棒状の茎をそのまま物干し竿、杖、釣竿などに利用するだけでなく、建築用材になるばかりか、管になっている特性を利用して、便利な道具類はもちろん、笛、尺八のような楽器の材料にもなる。また、表皮の硬さや弾力を

利用する技術も発達した。樽、桶などは、表皮を表に出した籠で木製の胴を締めである。薄く剥いだ表皮をさまざまな形に編み上げる技術も発達し、驚くほど多種多様な製品があった。身近な台所用品だったざる、かご、みそ漉、茶漉のような道具はすべて編んだ竹細工だ。

茎の部分だけでなく、たけのこが成長する途中ではがれ落ちる竹の皮も、水を通さない丈夫な包装材料として広く使われた。今では、竹の皮で包むのは高級な菓子類ぐらいになっってしまったが、かつては安く手軽な使い捨て材料だったのである。

竹や竹の皮は、プラスチックほど丈夫でも



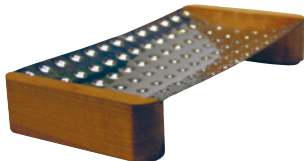
ないし大量生産もできないが、太陽エネルギーだけでできる植物だから、捨てても燃やしても環境に悪い影響を与えずに分解して土に還る完全なリサイクル材料なのだ。また、成長が早いだけに、どの植物より早く大量の二酸化炭素を吸収する能力がある。

使いたいだけ石油を使える時代は、すでに終わりかけているようだ。現代のハイテクによつて竹を上手に利用し、石油を原料とするプラスチックの代わりに竹をたくさん使う世の中に戻れないだろうか。

いしかわえいすけ
作家。著書に、江戸時代の資源やエネルギーの循環について紹介した『大江戸リサイクル事情 大江戸えねるぎ事情』などがある。

洗濯機のドラムがペントレーに!

ステンレスと木を組み合わせた、スタイリッシュなペントレー「SECCO ASTE.40」。丸い穴があいたアーチ型のステンレス部分、どこかで見たことがあるような……。そんなんです! これは、洗濯機のドラムなのです。廃棄処分となったドラムを再利用して、さらにそれが長く使えるように、耐久性にも配慮。お洒落と実益を兼ねたペントレーは、インテリアとしても最適です。



ピクニック(電話03-3469-1930) <http://www.seccoshop.jp>

自然に還る竹の歯ブラシ



歯ブラシは、毎日使うアイテムだけに、消耗も早いもの。短いサイクルで、しかも結局使い捨てななくてはいけないなら、環境に優しい歯ブラシを選びたいですね。そこでおすすめしたいのが、土に埋めておけば、二酸化炭素と水に分解される「竹の歯ブラシ」。静岡県産の竹の繊維でできていて、燃やしても、二酸化炭素の増加がありません。自然素材で、体に優しいというのもポイントです。

ファイン(電話03-3761-5147) <http://www.fine-revolution.co.jp>

風呂敷とバッグが一体化



最近、マイバッグとして、その良さが改めて見直されている風呂敷。いろんな形のものがあるが自在に包めて便利なアイテムですが、使いこなせるようになるには、ちょっとした知識とコツが必要です。でも、「1+d フロシキバッグ」なら、難しい作業は一切なし。対角線上についたマグネット入りの持ち手をパチッとくっつけることで、持ちやすく、中身も安定します。まさに風呂敷とバッグのいいとこ取り。

アッシュコンセプト <http://www.h-concept.jp>

エコモノ

エコモノたちで、あなたの暮らしを彩りあるものにしてみませんか。